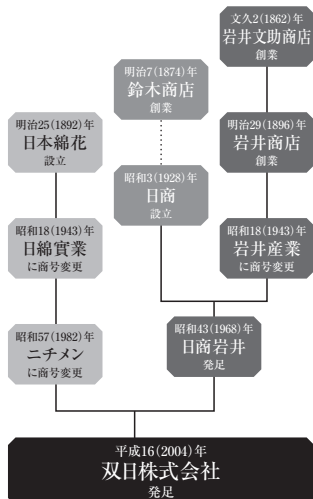


160年以上の歴史を受け継ぐ新しく伝統ある双日 ～総合商社としての原点に立ち返る

双日の系譜



2003年、ニチメンと日商岩井が経営統合し、翌年2004年、双日として発足した。日商岩井は、文久2(1862)年に創業された岩井文助商店、明治7(1874)年に設立された鈴木商店が源流であり、ニチメンは明治25(1892)年に設立された日本綿花を出発点としている。

鈴木商店と岩井商店は、現在に続く代表的な製造業を次々と設立し、日本綿花は世界各地での綿花の調達と綿製品の販売のために、日本の海外進出の尖兵として活躍した。双日は、開国後、最も日本が輝いた明治・大正の産業革命期に、日本の礎づくり、モノづくりに奔走した商人の起業家精神、フロンティア精神を受け継いだ総合商社といえる。そして、先人から受け継いだ顧客、商品、スピリッツといった有形無形の資産を高度化し、また新たな領域で挑戦している。

2021年の統合報告書の中で社長の藤本は、「総合商社としての原点に立ち返る」とし、先人の偉業を例に、今こそ世の中の変化を捉え、これから旬を迎える新しい事業、新しい土地に投資し続けていかななくてはならないと決意を述べている。また、現在の



代表取締役社長 CEO
藤本 昌義

双日について、強い責任感のもと、マーケットの課題を取り上げ、解決策を提案していける能力を個人が持ち、組織としては風通しの良さとスピードを重んじる社風であること、これが双日らしさであると紹介している。

双日は、2030年における「目指す姿」として、かつて先人が行ってきたように「事業や人材を創造し続ける総合商社」を掲げ、新たな次代を創ろうとしている。